

障がい者支援施設による物品販売

# 毎月 第2・4木曜日は「あつまルシェ」!!

おいしいパンやお菓子、工芸品など、出店事業所で作ったさまざまな商品を販売します。ぜひ、お気軽にご利用ください。

場所▼役場行政棟1階(総合案内前)

時間▼午前11時～午後1時

問い合わせ▼地域生活支援センター(☎287-2525)



期日等▼

期日	出店事業所
4月11日(木)	ドリームたんぽぽ(パン、工芸品等)、ハートケアセンターひたちなか(焼き菓子、調味料等)
4月25日(木)	幸の実園(梅干し等の食品)、ハピネス東海(ジャム、蒸しパン、工芸品等)
5月9日(木)	らぼーる朋(花の苗等)、ドリームたんぽぽ
5月23日(木)	ハートケアセンターひたちなか、ハピネス東海
6月6日(木)*	幸の実園、らぼーる朋
6月13日(木)*	ドリームたんぽぽ、ハートケアセンターひたちなか

\*6月は第1・3木曜日に開催します。

## ふるさと歴訪 ―歴史を再発見―

# 村松の大火と虚空蔵堂

ふるさと歴訪



―歴史を再発見―

(仮称)歴史と未来の交流館展示監修委員

宮内 教男

明治33(1900)年3月13日午前11時30分、村松山虚空蔵堂の門前、新町通りの民家より出火しました。強風にあおられ、火は瞬く間に燃え広がり、宿通りを焼き払い、虚空蔵堂の坊客殿に延焼。さらに、その灰じんは三重塔の三階に吹き積もって発火して境内は炎に包まれ、本堂、仁王門、鐘楼も焼失しました。門前の民家や旅館なども100軒余りが焼失する大火となりました。直後に現地を踏査した那珂郡役所の職員は「その惨状、実に見るに忍びざるなり」と述べています。

虚空蔵堂の本尊・虚空蔵菩薩は、前立虚空蔵菩薩、鍾馗霊尊画像、霊験木などとともに救出されました。猛火が迫る中、頭から水をかぶって本堂に飛び込み虚空蔵菩薩を背負って助け出したという女性参詣者がいました。ご子孫を訪問すると、本尊を救出したお札に村松山から贈られたという虚空蔵菩薩像が大切に保管されていました。



【大火で焼失した仁王門】

さて、虚空蔵菩薩は、仮本堂が完成するまで佐竹寺(常陸太田市)に預けられました。当時の東京朝日新聞は「仏像飛ぶ」という見出しで、「村松の大火」後の現地の風評を報じています。「大火の前夜、虚空蔵菩薩は不思議なことに本堂を抜け出して、佐竹寺本堂の観音様の前に安座した、同地の人々は虚空蔵菩薩が前もって火災を避けるために佐竹寺に飛んだと話している」というのです。そして、虚空蔵菩薩の不思議な予知能力の話が広まり、その御利益に預かろうと、佐竹寺に奉安されている虚空蔵菩薩に多くの人々が参詣していると伝えていきます。

虚空蔵菩薩が火災を察知し、前夜に空を飛んで佐竹寺へ避難した? この不思議な話からは、人々があつい信仰を寄せる虚空蔵菩薩が、悲惨な大火の中で奇跡的に救出されたことに對する驚きと安堵が伝わってきます。

大火の翌月、虚空蔵菩薩は仮本堂に戻され、護摩も再開されました。